

# 杉森テラアト遺跡

1991

石川県立埋蔵文化財センター



# 杉森テラアト遺跡

石川県立埋蔵文化財センター



# 例 言

- 1 本書は石川県鹿島郡田鶴浜町<sup>たつるはま</sup>杉森<sup>すぎもり</sup>に所在する杉森テラアト遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は石川県農林水産部耕地建設課施行の農免農道建設事業（田鶴浜西部地区）に起因し、同課の依頼をうけた石川県立埋蔵文化財センターが七尾土地改良事務所と協議して実施した。調査に係る費用は同課が負担した。
- 3 現地調査の期間は平成2年6月4日から同年6月21日までである。
- 4 発掘調査は埋蔵文化財センター調査第一課主査三浦純夫が担当し、同センター調査員藤重啓の補助をうけた。
- 5 発掘調査にあたって下記の田鶴浜町杉森地区有志の協力を得た。深く感謝したい。杉岡博行（杉森区長） 佐々木理作 杉木義盛 高橋義一 山田正男（以上杉森区）
- 6 本書の作成にかかる整理作業のうち遺物の実測・製図、遺構図の製図は藤重が、遺物の写真撮影は三浦が担当した。
- 7 本書の執筆・編集は三浦が担当した。
- 8 調査によって得られた資料は石川県立埋蔵文化財センターが保管している。

## 目 次

	頁
例 言	i
第1章 序 説	1
第1節 調査の契機と経過	1
第2節 立地と環境	1
第2章 調査の結果	4
第1節 遺跡の内容	4
第2節 出土遺物	6
第3章 まとめ	10

## 図 版 目 次

図版第一 空中写真

図版第二 (1) 遺跡遠景(東から) (2) 調査前の遺跡(東から)

図版第三 (1) 調査区全景(西から) (2) 曲物出土状況

図版第四 遺物

## 挿 図 目 次

	頁
第1図 田鶴浜町の位置……………	1
第2図 杉森テラアト遺跡と周辺の遺跡分布図(縮尺 25,000分の1)……………	2
第3図 調査区と周辺の地形(縮尺 5,000分の1)……………	4
第4図 調査区位置図(縮尺 500分の1)……………	5
第5図 調査区全体図(縮尺 80分の1)……………	6
第6図 出土遺物実測図(1)(縮尺 3分の1)……………	7
第7図 出土遺物実測図(2)(縮尺 3分の1)……………	8
第8図 出土遺物実測図(3)(縮尺 4分の1)……………	9
第9図 杉森テラアト遺跡地形図(縮尺 1,000分の1)……………	11
第10図 五輪塔水輪実測図(縮尺 4分の1)……………	11

## 表 目 次

	頁
第1表 周辺遺跡地名表……………	3

# 第1章 序 説

## 第1節 調査の契機と経過

本遺跡発掘の契機は農林水産部耕地建設課の施行する農免農道整備事業（田鶴浜西部地区）で、七尾土地改良事務所が事業を担当している。同事業は田鶴浜町三引<sup>みびき</sup>地内から同杉森地内にかけて幅員約15mの道路を建設しようとするもので、平成2年度に終了の予定である。

平成元年6月5日に現地の踏査を行い、同年7月18日と10月24日に試掘調査を実施した。その結果、杉森地内のテラアトと通称される丘陵の裾部に遺跡が存在することを確認した。耕地建設課、七尾土地改良事務所と取り扱いについて協議した結果、平成2年度に発掘調査を実施することとなった。

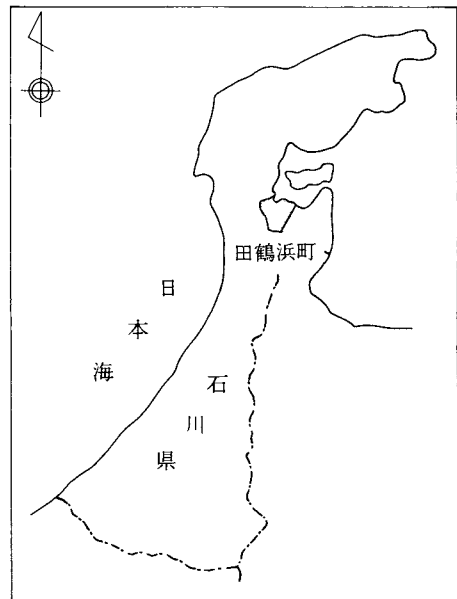
現地調査は平成2年6月4日より開始し、同年6月21日に終了した。地元杉森区の杉岡博行区長をはじめ、有志の方々に大変お世話になった。心より感謝の意を表したい。

## 第2節 立地と環境（第1～第4図、図版第一）

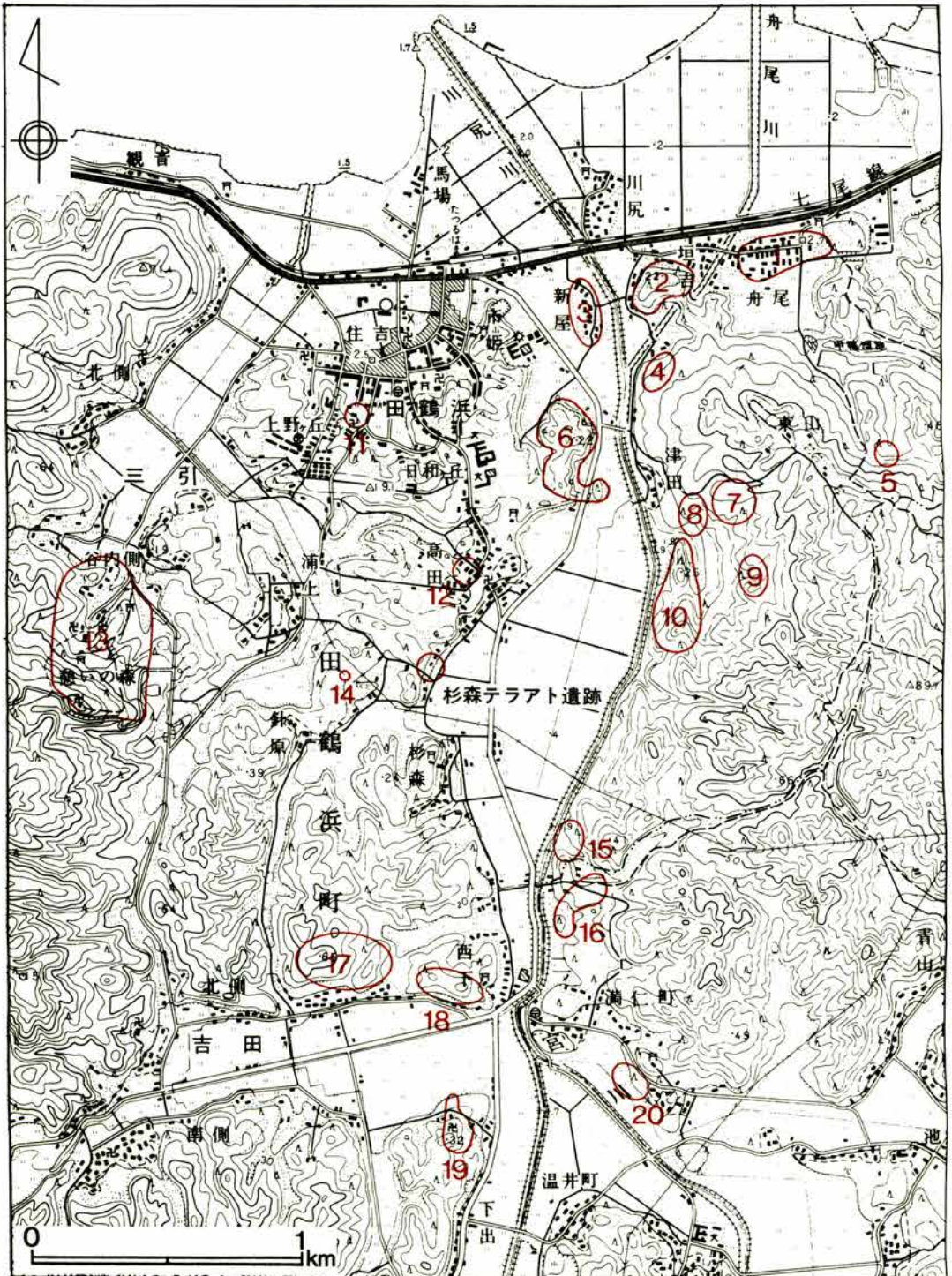
本遺跡は石川県鹿島郡田鶴浜町杉森に所在する。西接する丘陵は「テラアト」の小字名をもつ。田鶴浜町は能登半島のほぼ中央部にあり、北側は七尾湾西湾に面し、南は二宮川、伊久留川<sup>いくるがわ</sup>により開かれたせまい沖積地となっている。杉森は町の南部に位置し、東には信仰の山、赤蔵<sup>あかくら</sup>が存在する。第2種兼業農家を主体とする当地であるが、かつては竹籠作りの村として知られていた。慶長11年（1606）長連龍が当地の名物である浜豆腐、蜘蛛ダコ、白浜ミカンを金沢へ送るために作らせたことに由来するといわれる。

本遺跡は標高約4.5mの沖積地に立地する。西には標高約15mの低丘陵があり、テラアト遺跡そのものはこの丘陵上に占地するが、今回の調査区はこれに接することでテラアト遺跡に包括することとした。

周辺の遺跡を概観しよう。二宮川の下流域にあたる当地周辺は古墳が多い。吉田古墳群は町史編さんにともない発掘調査がなされている。弥生時代後期の台状墓群を中心に33基の古墳が知られる。東山古墳群は横穴式石室を内蔵する。平成2年度に県立埋蔵文化財センターは垣吉<sup>かきよし</sup>A古墳群と垣吉マツサキ山中世墓群を調



第1図 田鶴浜町の位置



第2図 杉森テラート遺跡と周辺の遺跡分布図

1/25,000



第1表 周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	現況	種別	時代	備考
1	舟尾遺跡	田鶴浜町舟尾	畑地	包含地	不詳	
2	垣吉B古墳群	" 垣吉	山林	古墳	古墳	円墳5基
3	新屋遺跡	" 新屋	水田・畑地	包含地	不詳	
4	垣吉南遺跡	" 垣吉	畑地	"	縄文	
5	舟尾コウラ池瓦窯跡	" 舟尾	山林	窯跡	平安	瓦窯跡、平瓦出土
6	北側中世墳墓群	" 北側	"	墳墓	中世	
7	東山古墳群	" 東山	"	古墳	古墳	円墳9基、横穴式石室
8	垣吉B遺跡	" 垣吉	"	包含地	古墳～平安	陶硯出土
9	垣吉古墳群	" "	"	古墳	古墳	円墳2基
10	高田古墳群	" 高田	"	"	"	26基あり
11	田鶴浜館跡	" 田鶴浜	宅地	館跡	近世	
12	高田氏館跡	" 高田	畑地・山林	"	"	
13	赤倉山遺跡	" 三引	山林	寺院跡	平安・中世	
14	杉森遺跡	" 杉森	"	包含地	縄文	
15	西下ホソメ遺跡	" 西下	"	墳墓	中世	
16	満仁細田古墳群	七尾市満仁町	"	古墳	古墳	前方後円墳と円墳、計4基
17	吉田古墳群	田鶴浜町吉田	"	"	弥生・古墳	台状墓群と古墳、計33基
18	西下古墳群	" 西下	"	"	"	
19	伊久留古墳群	" 伊久留	"	"	古墳	円墳7基
20	満仁遺跡	七尾市満仁町	畑地	包含地	弥生・古墳	

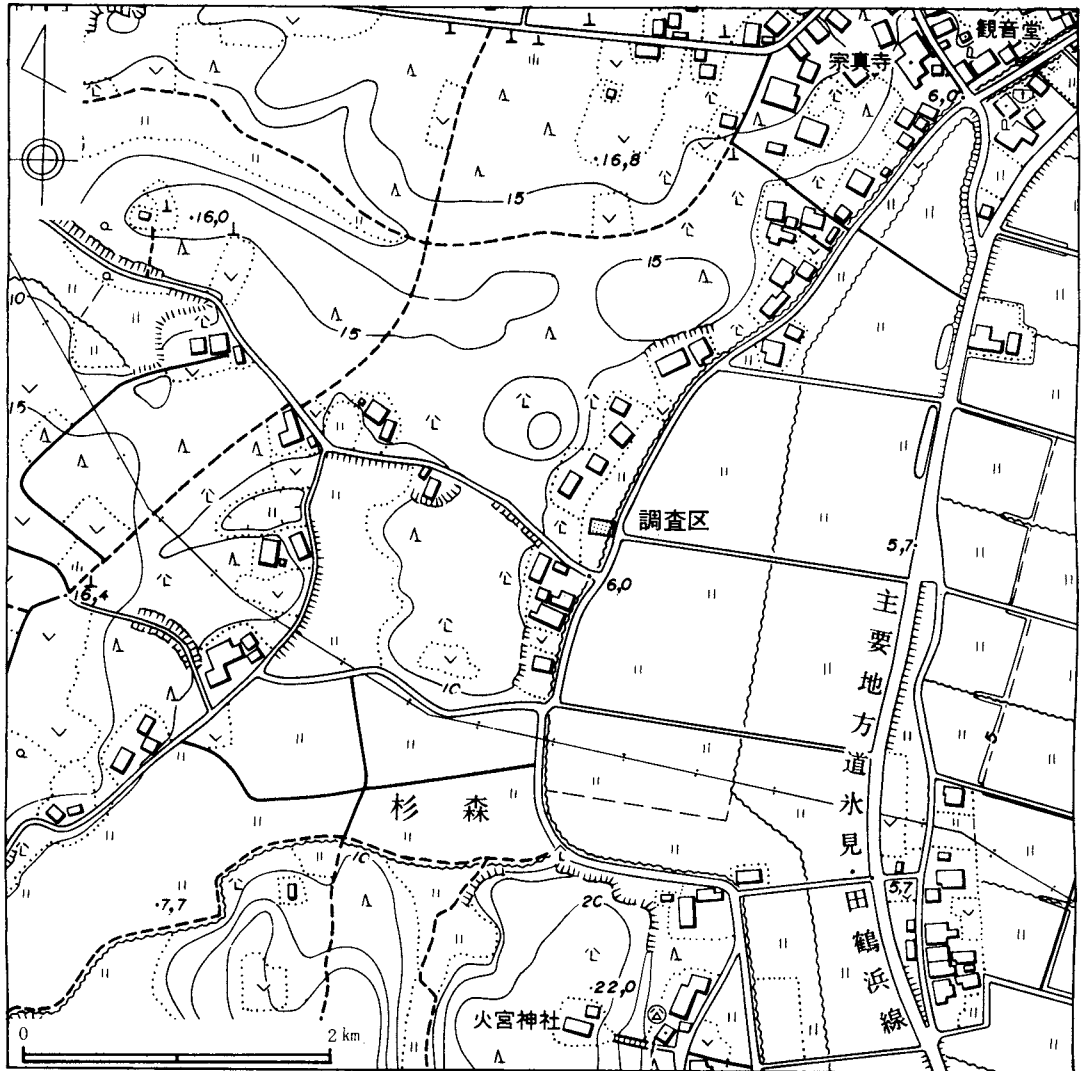
査している。前者は6世紀初頭の築造にかかると思われ、後者は蔵骨器をもつ配石墓で、13～14世紀の所産とみられる。舟尾の<sup>ふなお</sup>コウラ池瓦窯跡は平安時代前期の築造と考えられ、丸瓦が採集されている。中・近世を通じて信仰の拠点であった赤蔵山は本遺跡の西に存在する。山上には本宮寺講堂であった赤倉神社本殿が存在する。赤倉山にはかつて建物が存在したであろう多くの平坦面が残されている。また、周囲には五輪塔や板碑も少なからず見られる。近年の踏査では平安時代の遺物が確認されており、赤蔵山信仰が古代にさかのぼる可能性も指摘される。赤蔵山の整備は田鶴浜町の重点事業となっているが、山裾の御手洗地周辺に手が入ったのみである。長期的な展望をもった学術調査が期待される。

## 第2章 調査の結果

### 第1節 遺跡の内容 (第5図、図版第二)

調査対象区の面積は約200㎡である。しかし、東が排水路、西が丘陵、南北が民有地となっているため、排土場所を考えると調査区は限定されたものとなった。面積は70㎡である。

層序をみよう。青灰色粘土と青灰色砂質土からなる地山が西側にみられる。包含層はその上に形成されており、西側で約50cm、東側で約80cmの厚さを測る。第4層と第5層である。両層には



第3図 調査区と周辺の地形

1/5,000



第4図 調査区位置図

1/500

弥生時代～中世の遺物が混在している。第5層の下面より曲物が出土している(図版第三)が、これも旧来の位置にない。

調査区の北辺で全長約2m、最大径20cmの木を検出した。自然木が倒れたものである。

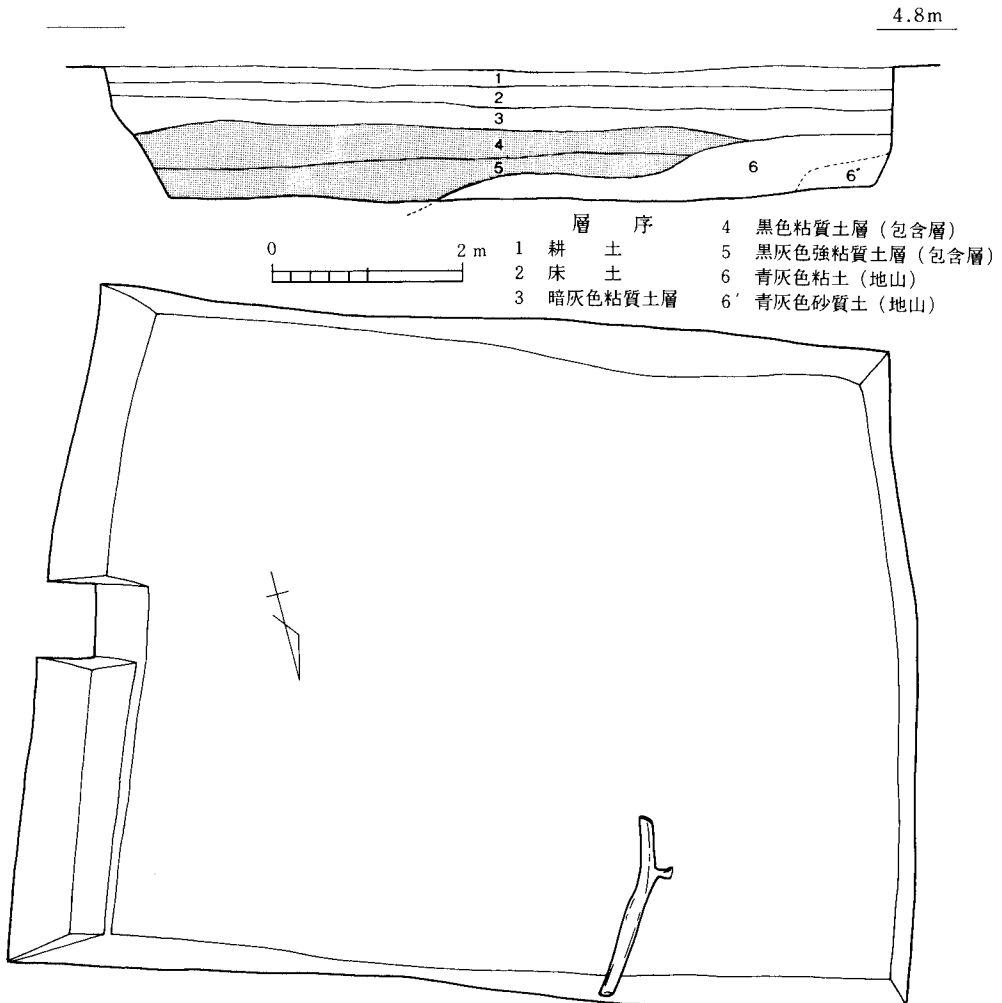
出土遺物には、弥生土器、土師器、須恵器、珠洲焼、木製椀、曲物、刀子、石器等がある。

## 第2節 出土遺物(第6・7・8図、図版第三)

遺物はすべて包含層からの出土である。

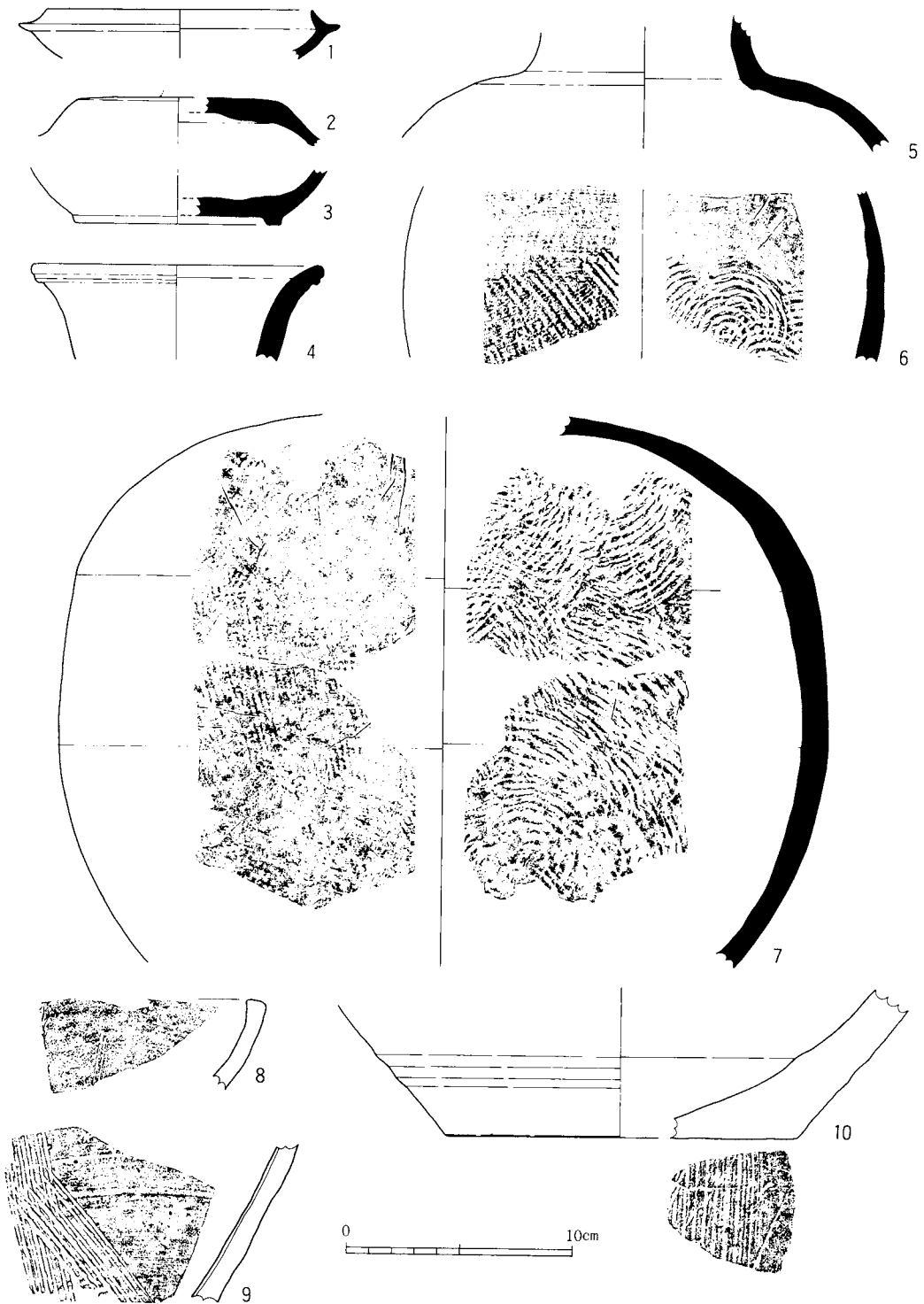
弥生土器・土師器(第7図)

11・12は平底、13・14は丸底となっている。16～19は高坏、20はかまどである。時期的には11・12を弥生時代後期、13～17を古墳時代中期、18・19を古墳時代前期としておく。15は回転糸切り

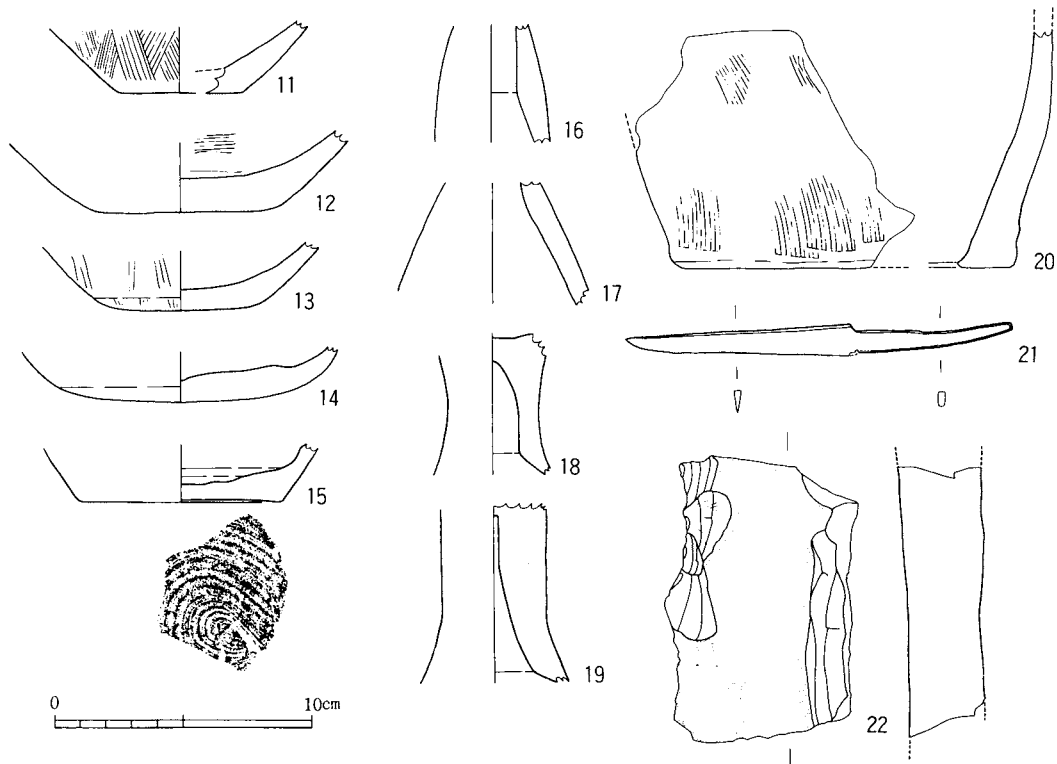


第5図 調査区全体図

1/80



第6図 出土遺物実測図(1)



第7図 出土遺物実測図(2)

1/3

痕をもつ土師器である。10世紀代のものと考えたい。これらの他に図示しえなかったものが、整理用コンテナで2箱出土している。

須恵器 (第6図)

坏が3点、壺形土器が3点図化できた。1・4・6は古墳時代後期に比定できる。6は精選された胎土をもつ壺形土器で、胎土・焼成ともに良い。在地窯の製品とは考えられない。

珠洲焼 (第6図)

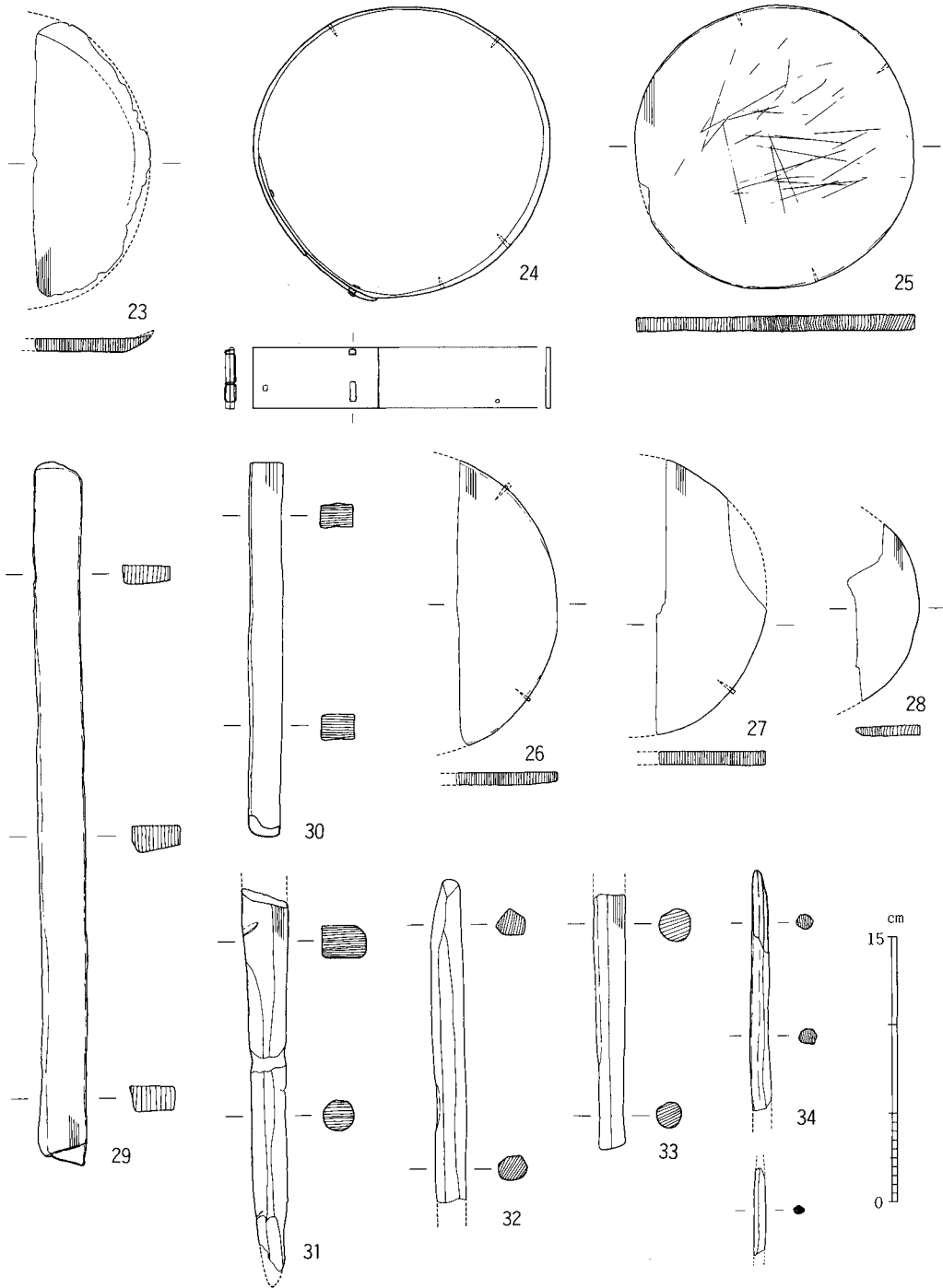
8~10でいずれも片口鉢である。8は口縁部で、端部に面取りがみられる。13世紀代の所産と考えたい。9には一単位7条の櫛目が2.3cmの幅をもって施される。櫛目は細く深い。顕著な使用痕はうかがえない。炭化物が内面に付着している。

鉄器 (第7図)

21の刀子が1点ある。全長15.1cm、刀身部8.9cm、刀身中央部の幅0.9cm、峰の幅0.3cm、茎の長さ6.2cm、幅0.5cm、厚さ0.35cmを測る。関はななめに切れる。

石器 (第7図)

22である。板状の石の長側面の一方が加工されており、擦痕もみられる。長さ11.2cm、幅7.15cm、厚さ3.25cmを測る。



第8図 出土遺物実測図(3) 炭化した部分

## 木器 (第8図)

23は挽物の椀で、白木作りである。木目のとり方は柀目どりである。復元径16.9cm、厚さ0.84cmを測る。口縁端部を欠失するが、短い口縁をもつ浅い器形となろう。平城京出土資料に近似する器形が見られることより、奈良時代の所産とみることも可能である。

24は曲物である。底板はないが、釘穴の存在からみて、底板を側板の内側にはめて、木釘でとめるつくり方であることがわかる。直径16.5cm、高さ3.5cm、厚さ2.7cmを測る。約11cmの長さを重ね合わせており、樺皮紐で2ヶ所とめている。樺皮の幅4.9mm、厚さは0.5mmを測る。木釘は全周で4ヶ所の痕跡が認められる。

25～28は曲物の底板である。いずれも柀目どりである。25は径16.2cm、厚さ1.2cmを測り、3ヶ所に釘穴が確認できる。側板からはずれたあと、粗板に転用されたらしく、刃物の痕跡が見られる。26は復元径16.3cm、厚さ0.7cmを測る。2ヶ所に木釘孔を認める。27は復元径16.7cm、厚さ0.8cmを測り、木釘孔1ヶ所を認める。24～27は若干の法量差はあるものの、ほぼ同巧同大の製品とみられる。28は復元径12.2cm、厚さ0.6cmを測る小型品である。

29～35は棒状の製品である。31は先端部が面取りされており、くびれ部をつくる。30・31・34は端部が炭化しており、付け木として用いられたことも考えられる。35は箸とみられる。

## 第3章 ま と め

今回の調査区の西北部は標高約15mの低丘陵となっている。杉森テラト遺跡はこの丘陵に立地している。最後に丘陵踏査の結果を報告してまとめにかえたい。

丘陵上には、第9図に見るように溝状遺構が南西から北東方向に走っている。現状で、長さ約60m、幅3m、深さ1mを測る。これによって丘陵は二つに画されており、南東部では60×40mの長方形区画をつくっており、北西部では約80m平坦面がのびている。ここでは南東部の平坦面をA区、北西部をB区と仮称する。

A区では、北東部に五輪塔、珠洲焼が見られる。五輪塔は塔形を失っており、水輪が1点、空風輪が2点確認される。水輪は高さ13.5cm、上端部幅8cm、最大幅17cmを測る。空風輪は1点が高さ16.5cm、最大幅11.5cmを測り、風化が著しい。もう一点は旧状を失っており、現存高は13cmである。これらはいずれも小型である。珠洲焼は甕の破片が4点、片口鉢が1点ある。これらには骨片が伴っており、蔵骨器として利用されていたものと考えられる。

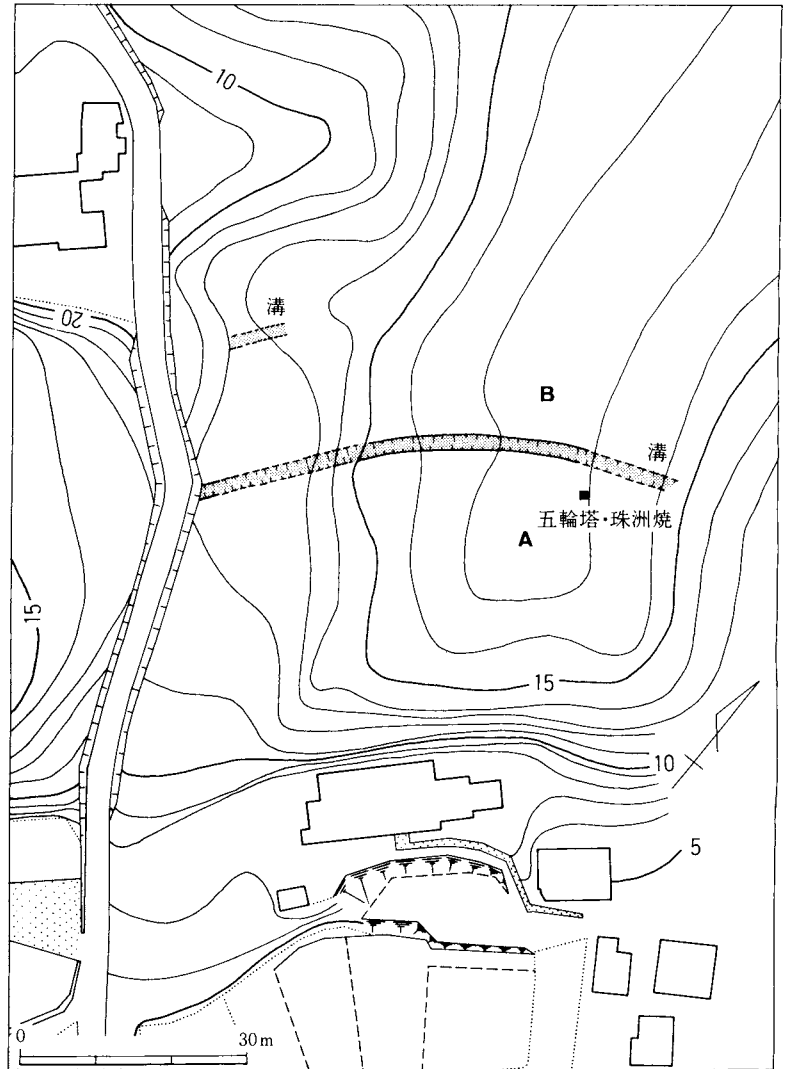
A区にはこの他、第10図に示した五輪塔水輪が確認された。本来の位置を保っておらず、上述の五輪塔、蔵骨器とも場所を異にするが、ほぼ同時期の所産とみられる。高さ14cm、上端部の幅12.9cm、下端部幅14cm、最大径21.5cmを測る。梵字等の刻出は見られない。

次にB区について説明しよう。ここでは道路法面の観察により二条の溝にはさまれた平坦面を確認した。B区の西方、道路寄りの場所である。二条の溝のうち一条は先述の南西から北東に走



るもので、もう一条はその北側に存在する。これは、幅1.5mを測り、断面はV字形を呈する。表土からの深さは2.45mを測る。二条の溝の間の平坦面は長さ11.7mを測り、溝の幅を加えれば、16.2mとなる。平面的な形状は不明であり、遺物を確認していない。

丘陵上で明らかになった、溝をもつ平坦面の時期について考えたい。わずかな手がかりである五輪塔や珠洲焼からみると、広義の室町時代<sup>(2)</sup>の中～後期には本遺跡が存在していたものと考えられる。また、今回調査を行った丘陵裾部から、中世前期の所産とみられる珠洲焼が出土していることも留意する必要がある。



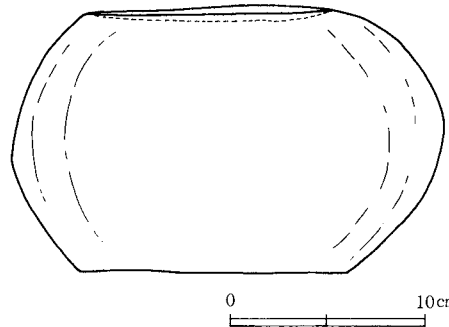
第9図 杉森テラウト遺跡地形図

1/1,000

本遺跡の評価にあたって、西に接する赤蔵山遺跡は看過できない存在である。資料の増加をまって改めて検討したい。

註

- (1) 踏査者は石川県立埋蔵文化財センター調査第一課長平田天秋と藤重啓・三浦純夫である。
- (2) 前期を南北朝時代、中期を狭義の室町時代、後期を戦国時代にあてる時代区分による。

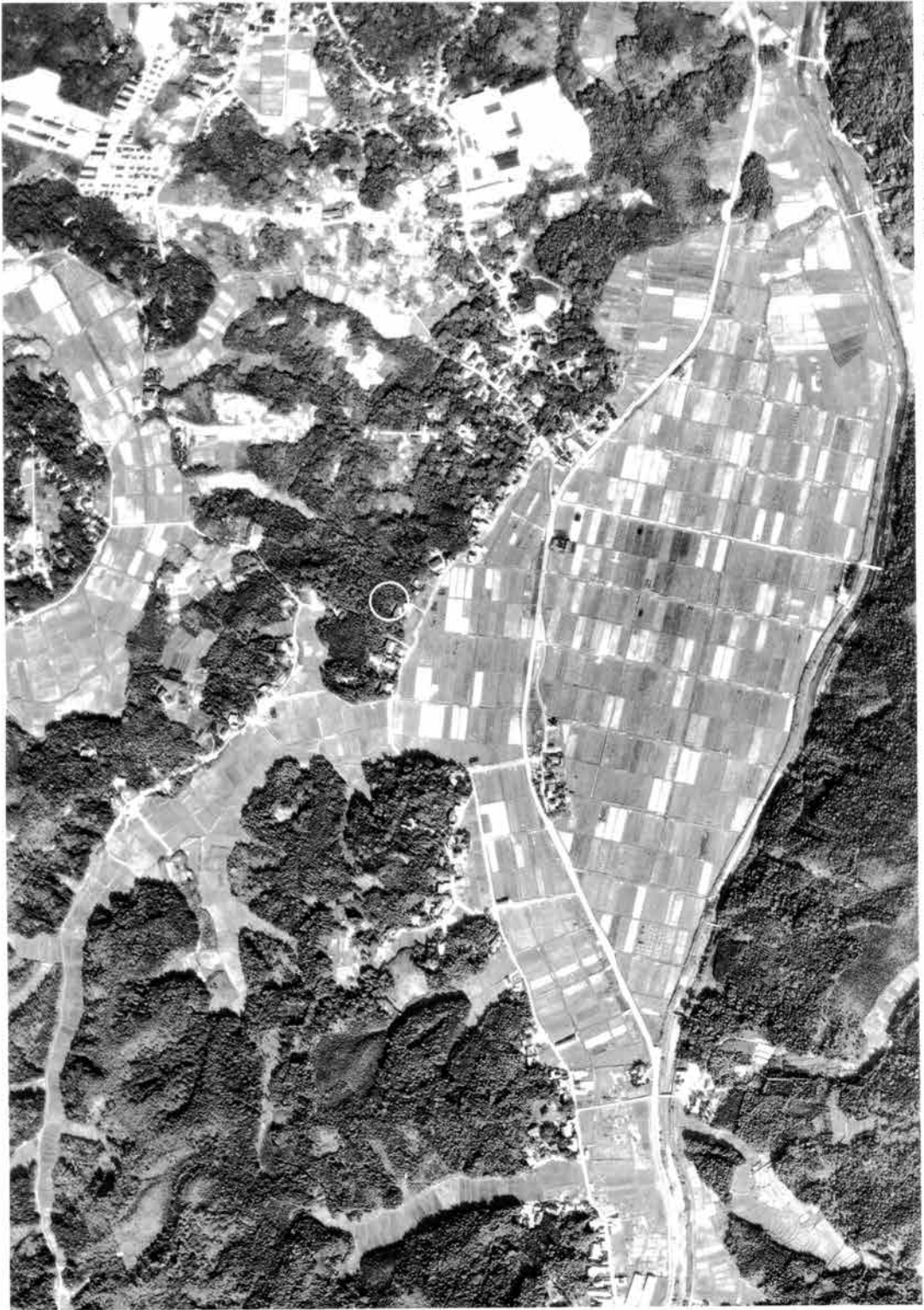


第10図 五輪塔水輪実測図

¼

参考文献（五十音順）

- 浅香年木・田川捷一他『角川日本地名大辞典』17 石川県 角川書店 1981 東京。  
田鶴浜町史編さん委員会編『田鶴浜町史』 田鶴浜町役場 1974 石川県田鶴浜町。  
町田章・上原真人編『木器集成図録』近畿古代編 奈良国立文化財研究所 1985 奈良。  
宮下栄仁・垣内光次郎「赤蔵山遺跡採集遺物」『石川考古』第167号 石川考古学研究会 1986 金沢。



杉森テラアト遺跡(○印)と周辺地域



(1) 遺跡遠景（東から）



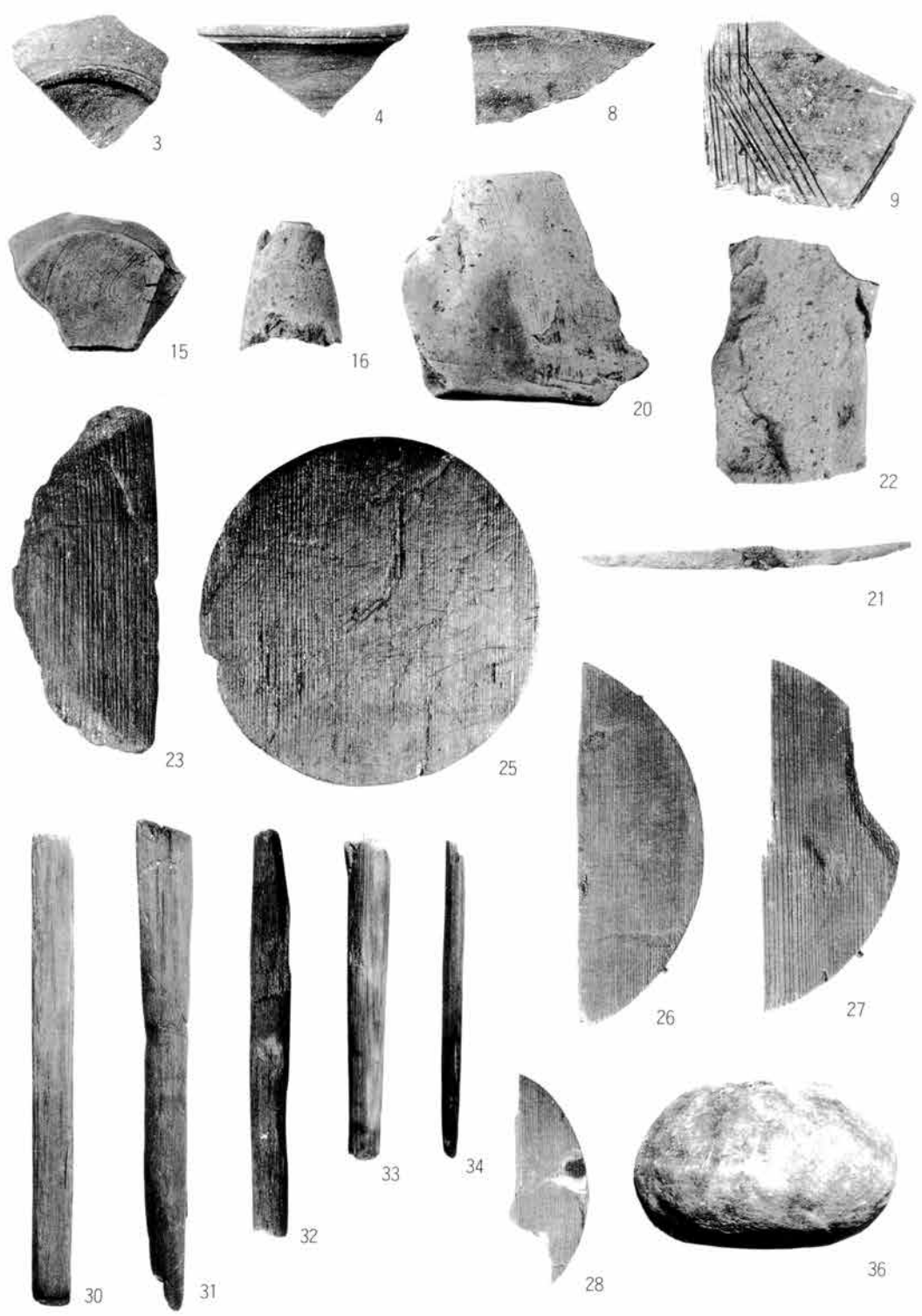
(2) 調査前の遺跡（東から）



(1) 調査区全景（西から）



(2) 曲物出土状況



## 杉森テラアト遺跡

---

平成 3 年 3 月 20 日 印刷  
平成 3 年 3 月 31 日 発行

編集・発行 石川県立埋蔵文化財センター

石川県金沢市米泉町 4 丁目 133 番地  
〒921 電話 (0762) 43-7692 番代

印刷 北國書籍印刷株式会社

石川県金沢市香林坊 2 丁目 5-1

---

©石川県立埋蔵文化財センター 1991  
本文用紙：書籍用紙イエロー（中性紙）72kg